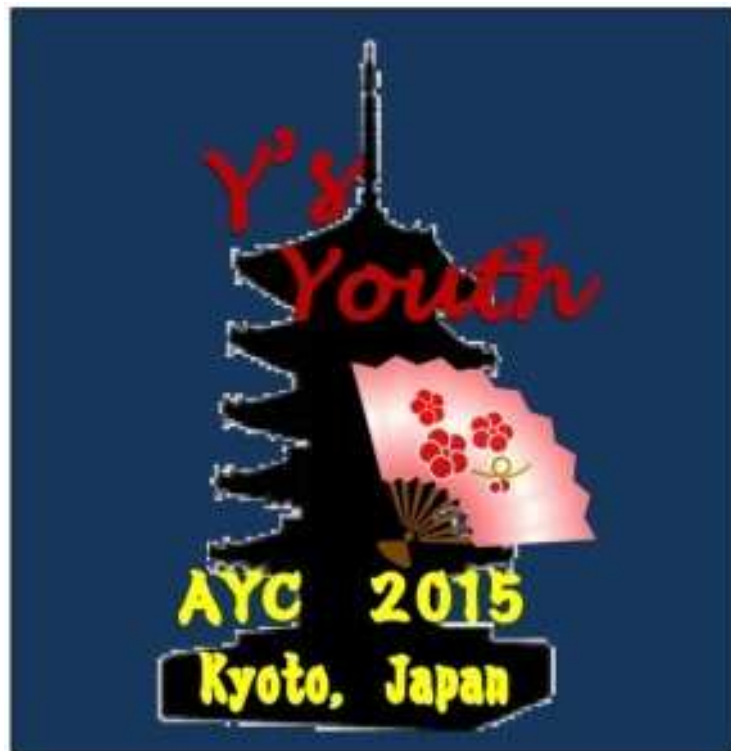


2015 Asia Youth  
Convocation  
Y's Men International  
報告書



開催地：あうる京北（京都）

期間：2015年7月29日(水)～8月2日(日)

# もくじ

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 1. 巻頭挨拶               |    |
| 直前アジア地域ユース代表.....沖 麻実 | 2  |
| 2. 西日本区ユース 参加者一覧      | 3  |
| 3. ユースコンボケーション全日程表    | 4  |
| 4. 各プログラム報告           | 5  |
| 5. AYC レポート           | 13 |
| 6. 西日本区ユース AYC 参加報告書  | 16 |

## はじめに

直前アジア地域コース代表  
福山 YMCA 外語学院職員  
沖 麻実

地域コース代表(AYR)として、コースコンボケーションの企画は挑戦してみたかった事でもありました。国を越えた同年代のコースたちと、アイデアを出し合いながら1つのイベントをつくりあげていく、その過程に魅力を感じていたからです。企画を行ってみて大変なこともありましたが、それ以上に達成感を感じることでできた貴重な経験になりました。



コースコンボケーションは、単に国際交流を行うだけでなく、毎年必ずテーマが設定され、そのテーマに沿った講演、ワークショップ、ディスカッションまたアクティビティーを行う、実践的な学びがある場です。今回のAYCには、東西日本区、台湾、フィリピン、モンゴル、中国、ナイジェリアの6ヶ国から、計48名の参加者コースが京都に集い、「Learning to have peace –What can we do?」というテーマのもと、平和な世界を築くために何ができるのかを考えながら、行動に移すためのアクションプランを作成しました。アクションプランを今回のプログラムに取り入れることで、行動に移すためのツールにして欲しいと考えました。5日間の限られた期間でしたが、参加者コースの皆さんが各々にリーダーシップを発揮し、文化や言語の違いから生じるすべての壁を乗り越えながら、積極的に交流する姿勢にとても感銘を受けました。プログラム中に築かれた彼らの団結力が何よりもAYCをより良いプログラムにしてくれたと思っています。そして約1年前より、企画の準備を一緒に進めてきましたAYC実行委員会の皆さま、コース委員会の仲間たちには心より感謝申し上げます。今後もより多くのコースたちに、コースコンボケーションに参加する機会が与えられ、貴重な体験を通じて、新たな可能性と自己発見の成長に繋がっていくことを願います。

AYRとして、無事に2年間の任期を終えることができました。これまで多くの温かいご支援をいただきました、東西日本区ワイズメンズクラブの皆様、YMCAスタッフの皆様、関係者の方々に深くお礼申し上げます。私たちの想いが詰まったAYC報告書をぜひ楽しみながら読んで頂ければ幸いです。

# 西日本区ユース 参加者一覧

|    | 名前               | 所属                             | 推薦クラブ             |
|----|------------------|--------------------------------|-------------------|
| 1  | 沖 麻実             | 直前アジア地域ユース代表<br>福山 YMCA 外語学院職員 | 西中国部 広島クラブ        |
| 2  | 二之方 良枝           | 広島女学院大学 学生 YMCA                | 西中国部 広島クラブ        |
| 3  | 桑原 ケビン 清治        | 広島 YMCA リーダー                   | 西中国部 広島クラブ        |
| 4  | 長尾 匡浩            | 姫路 YMCA リーダー                   | 瀬戸山陰部 姫路クラブ       |
| 5  | 吉村 尚馬            | ワイズコメット                        | 中西部 大阪西クラブ        |
| 6  | 畠平 くるみ           | ワイズマゴメット                       | 中西部 大阪西クラブ        |
| 7  | 三木 遙加            | ワイズマゴメット                       | 中西部<br>大阪セントラルクラブ |
| 8  | 香山 紫保            | ワイズコメット                        | 京都部<br>京都キャピタルクラブ |
| 9  | 中島 敬之            | 京都大学 学生 YMCA シニア               | 京都部<br>京都ウイングクラブ  |
| 10 | 關 つぐみ            | 京都 YMCA 職員                     | 京都部<br>京都パレスクラブ   |
| 11 | 浦川 慶宇            | 啓明学院高校                         | 六甲部 神戸クラブ         |
| 12 | 與那覇 秀亨           | 啓明学院高校                         | 六甲部 神戸クラブ         |
| 13 | 守本 紘菜            | 啓明学院高校                         | 六甲部 神戸クラブ         |
| 14 | 田中 絵梨果           | 啓明学院高校                         | 六甲部 神戸クラブ         |
| 15 | 岡田 カオリ           | 神戸 YMCA 学院専門学校                 | 六甲部 神戸クラブ         |
| 16 | Z.B.H            | 神戸 YMCA 学院専門学校                 | 六甲部 神戸クラブ         |
| 17 | カバロン<br>アドルヴィセンテ | 神戸 YMCA 学院専門学校                 | 六甲部 神戸クラブ         |
| 合計 | 17 名             |                                |                   |





# ロイズメンスクラフ国際協会 2015アジア地域ユースコンボケーションー京都、日

テーマ： Learning to Hace Peace

～What Can We Do?～

会期：2015年7月29日(水)～8月2日(日)

会場：あうる京北(京都府立ゼミナールハウス) & ウェステイン都ホテル京都



## スケジュール

| 1日目 7月29日(水)  | 2日目 7月30日(木)  | 3日目 7月31日(金)  | 4日目 8月1日(土)   | 5日目 8月2日(日)  |
|---|---|---|---|--|
| 13:00 京都駅・関空バス出発<br>14:30 登録開始<br>16:30 開会式<br>17:15 インフォメーション<br>17:30 夕食(BBQ)<br>19:00 ティスプレイク<br>20:00 インフォメーション | 8:00 起床<br>8:30 朝食<br>9:00 インフォメーション<br>9:15 礼拝<br>9:45 セッション①<br>10:30 ワークショップを含む講演<br>(ロニー・アレキサンダー氏)<br>12:15 昼食<br>12:30 インフォメーション<br>13:30 エクスカーション<br>(かやぶきの里 & 鮎つかみ)<br>17:40 あうる京北戻り<br>18:30 夕食<br>19:30 セッション②<br>20:30 APナイトダンス練習 | 8:00 起床<br>8:30 朝食<br>8:50 インフォメーション<br>9:00 礼拝<br>9:15 セッション③<br>10:00 講演<br>(ステイーン・リーパー氏)<br>11:30 セッション④<br>12:30 昼食<br>13:00 インフォメーション<br>13:30 セッション⑤<br>15:50 インフォメーション<br>16:00 AVR選挙・開票<br>17:00 各国文化発表準備<br>18:00 夕食<br>19:00 各国文化発表<br>20:30 サークルオフライト<br>(キヤンパフアイヤー) | 6:00 起床<br>7:15 礼拝<br>7:30 出発<br>7:45 京都市内観光<br>昼食<br>13:00 京都平安ホテル 到着<br>テクニオンプラン発表<br>14:30 APナイトダンス練習<br>17:15 出発<br>17:40 京都ウェステインホテル到着 | 6:00 起床<br>7:00 朝食<br>8:00 ウェステイン都ホテル到着<br>8:30 礼拝<br>9:10 AACIにてAVRレポート発表<br>12:00 AACI閉会<br>12:30 関西空港・京都駅へのバス<br>出発 |
| 会場：あうる京北<br>宿泊：あうる京北  | 会場：あうる京北<br>宿泊：あうる京北  | 会場：あうる京北<br>宿泊：あうる京北  | 会場：あうる京北・ウェステイン都H<br>宿泊：京都平安ホテル   | 会場：ウェステイン都H  |

# プログラム報告

## 5つのセッションとアクションプラン作成

### セッション1

アクションプラン作成に取り掛かる前に、5つのセッションを行った。

まずセッション1では、**What peace means to you?** –あなたにとっての平和とは?というトピックで、2つだされたAYC事前課題 で参加者のみなさんに考えてきていただいた**Me + =Peace**の にそれぞれどんなことばを当てはめてきたか、また何故それが自分にとって平和を連想させる言葉であるのかを、グループごとに話し合った。限られた時間で色んな人の意見が聞けるよう、World Café Style 形式のディスカッションを行った。愛、異文化理解、許し、音楽、笑顔、尊敬といったさまざまな単語が参加者からあげられた。互いを尊重し理解することから平和がはじまるという共通の意見があがった。

### セッション2

セッション2では、AYC事前課題 の共有を行った。内容は、平和を学ぶにあたってあげられた3つのトピック「戦争」「環境問題」「異文化理解」のうち、1つを選び、そのトピックに関連した問題や、解決策を自分なりに考えてくるというものである。セッション1でのグループメンバーで最初は話し合いがスタート、次に同じトピックを選んだ人たち同士が集まってのディスカッションを行った。そして最終的に、アクションプランを作成する区ごとのグループに分かれ、それぞれがこれまでのグループで話し合った内容を共有しながら、アクションプランのブレインストーミングが行われた。



### セッション3 × セッション4

セッション3では、これまでのセッションでの話し合いをつづじて、またロニーアレキサンダーさんとスティーブリーパーさんの講演を聞いて、平和に対する考えがどのように変わったか、これまでのまとめを行った。発表では、国と国との違いをまず互いが認め、協調し合える関係を築くこと。最初のセッションではあまりでなかった、人と自然との関係を大切にすることという意見がでた。また“協調性” “共存” というワードが多くあがった。その後のセッション4では、本格的にアクションプラン作成に、グループごとに取り掛かった。どのグループメンバーも真剣に取り組み、プログラムが終わった後でも、明け方まで話し合いをつづけていたグループもいた。



## セッション5

アクションプランが完成したところで全体で発表のリハーサルを行った。ただ発表を行うだけでなく、参加者全員が発表したグループに対して、アクションプランに対する感想や意見、質問などを用紙に記入し、回収して最終的に各グループへ渡された。中には、厳しい意見もあったが、コメントを参考に、再度アクションプランの見直しを行いながら本番に挑んだ。

### アクションプラン発表

アクションプランの発表は、場所を変えて、京都平安ホテルの一室で行われた。

リハーサルを行った効果か、内容がとても分かりやすくなっていたグループもあった。

平和のことを考えるきっかけや、戦争の知ら

ない事実を知ってもらうため、SNSを利用したマガジンを発行する、また学生を対象とした異文化理解のためのキャンプの開催、海岸の清掃活動等、とても興味深いアクションプランが作成されていた。これらの作成されたアクションプランは、約6ヶ月の期間の中で実施され、期間後にフィードバックを提出してもらうというスケジュールとなっている。



## ワークショップを含んだ講演

講演者: ロニー・アレキサンダーさん

セッション1で「平和とは何?」について考えた後、ロニーアレキサンダーさんの講演が始まった。アレキサンダーさんの講演では、平和とは何かを更に深く掘り下げて考えることができた。ポーポーキという名前の親しみやすい猫のキャラクターが登場し、紙芝居や身体で平和を表現するワークショップ、20世紀の戦争の歴史をまとめたDVDを一緒に見ながら、世界で過去に起きたこと、未だに続いている問題(戦争・環境問題・人権問題)を色んな視点から見つめることができた。



日常生活の中でも深刻な問題(いじめ・自殺・虐待等)は起きていて、平和でない状態(Unpeaceful)はたくさんあるのだということを強調されていた。

「常に元気である状態が平和なのか?」「自分だけが平和であればよいのか?」「他の人が平和でないとき、あなたは平和でいれるのか」ポーポーキが登場した紙芝居のストーリーでは、ポーポーキが参加者に問いかけながら、平和とは何かを一緒に考えた。



ワークショップをつうじ、実際に平和でない状態(Unpeaceful)から身体を使ってそれぞれが平和を表現できたように、私たち一人一人には何かできることが必ずある。それを、アクションプランをつうじて探しだして下さいという応援の言葉をいただき講演は終わった。平和はとても抽象的であり、これまで深く考えたこともなかったが、講演をきっかけに日頃の生活の中でも考えるほど、今では身近なものとして捉えている。



## 講演

講演者: スティーブン・リーパーさん

リーパーさんの講演では、世界で起きている資源をめぐる紛争の話や、懸念されている温暖化の問題が進行することにより近い将来、島が沈んで、人の住む場所や生きることさえもできなくなるという深刻な話がされた。



リーパーさんは、地球を1つのシステムと捉えている。例えば、人間の体が病気になった時、すぐに病院に行って治療できるように、システムも故障すれば治さなければならない。その地球のシステムは、今とても悪い状態にあり、だからこそ平和が必要であると強調されていた。わたしたち人間は日頃、自分たちの生活を考えることでいっばいで、見えない人たちのことを考えることはあまりないとリーパーさんは言われるが、皮肉なことにもそのとおりであると感じた。またNo1になりたいという欲求から、競争概念が生まれ、この競争概念こそが戦争を生み出しているとも言われた。「核兵器をつかって、競争から生まれた対立を解決することはできない、これが戦争である」と。

リーパーさんのお話は1つ1つが心に重く響いた、今後も世界人口の増加に伴って人々は資源をめくり、さらに対立が増えるのではないかとネガティブな考えさえ浮かんだ。それらの問題は、私にとって果てしないものにも思えた。わたしたちの力なんて、もはや及ばない世界なのではないかと。しかしリーパーさんは、だからこそどうやって相手と分かち合うのか、対立をどう乗り越えるのかを考えることはとても重要であり、考えはじめた時から、平和な世界をつくりはじめていと述べられた。地球上のすべての人たちが生きていくためには、“協力”が不可欠であり、私たちには、人間だけでなく地球上の生きとし生ける物すべてと共に生きていく=イコールを考えることが、平和な世界をつくりあげることであると。

文化も国も言語も違う人たちと互いに分かち合うことは、簡単なことではないが、多国籍の人たちが集まるユースコンポジションこそまさに1つのピースを創りあげているのではと、リーパーさんのお話を聞いて感じた。わたしたちにできることは小さいことかもしれないが、平和のために、常に自分は何ができるかを考えつづけたいと強く思った。

最後に、平和を考える活動拠点としてリーパーさんが取り組まれている、「平和文化村をつくる」というとても興味深いプロジェクトの紹介があった。実際に取り組まれているプロジェクトを例に、アクションプラン作成への貴重なアドバイスを頂くこともできた。持続可能な平和を生み出すため、アクションプランをステップに、さまざまな活動にプランを活用してみたいと思った。

## エクスカーション

### かやぶきの里

京都府美山町にある「かやぶきの里」で日本の伝統的家屋を見学した。京都北山型の農家住宅の主屋のほとんどが、国から重要伝統的建造物に指定されている。また、建造物の大部分が築 100 年以上のものであった。駐車場に到着後、2つのグループに分かれてボランティアガイドが 1 名ずつ付いた。そして説明を行いながら、かやぶきの里民族民俗資料館内を目指し歩いて移動。このエクスカーションのために、参加者ユースの中で構成された「通訳サポートチーム」が大活躍。ガイドの説明を英語、またはマンドリンでの通訳をおこないながら、それぞれが熱心に耳を傾けていた様子が印象的であった。

少し移動しただけで汗が吹き出るほどの猛暑日であったが、民俗資料館の中は茅葺きの効果でクラーがなくとも涼める快適な場所であった。資料館の中には牛小屋もあり、その昔牛の力を借りて農業をおこなっていた時代には、家の中に牛小屋をつくり一緒に暮らしていたという。ガイドの説明を聞いた後、資料館の中を見学した。かやぶきの建築構造や当時の人々の生活様式等、昔の人々は暮らしの中で自然と上手く共存しながら、沢山の工夫をこらして生活していたことが学べた貴重な体験であった。



(かやぶきの里)



(ガイドによる説明を聞いている場面)

### 鮎つかみ

かやぶきの里見学を終えた後バスで由良川へ移動、そこで鮎つかみに挑戦した。透明でとても綺麗な川の中に鮎が 100 匹ほど放たれた。ホストコミッティの方達は、ユースよりも先に現地に移動し、掴んだ鮎を新鮮な状態で味わえるよう、BBQ 準備をしてくださっていた。そして鮎をつかんだ人から、その場で塩焼きにして食べた。なかなか鮎を素手で掴むことは難しく苦戦。川の水を徐々に減らしていきながら、そしてユースの皆で鮎追い込み作戦をしながらやっと鮎を捕まえることができた。みんなの笑顔がたえないとても充実した時間であった。



## AYR 選挙

毎年のユースコンボケーションで必ず行われるユース代表を決める選挙が行われた。



今回はエリアのユースコンボケーションなので、アジアエリアの代表を決める選挙となる。選挙は、立候補または推薦された人が参加者全員の前で、今後のアジアエリアを代表としてどのようにリードしていきたいか抱負を語り、最終的に区ごとに与えられる投票数によって代表が決定される仕組みで。

立候補者は1名で、台湾から参加の Candy Lin さんが、新アジアエリアユース代表に選ばれた。Candy さんは、台北ユースクラブを2015年に発足させ現在はユースクラブ会長(CP)として活動をしている。ワイズとの関わりは、2009年にスリランカで開催されたAYCから、ほぼ毎年AYC・IYCと参加、経験がとても豊富だ。彼女は、これまでユースコンボケーションで築いてきた、各エリアのユース代表、区ユース代表、そしてユースインターンとの関係を活かしながら、他エリアとの積極的な交流を図りたいと述べる。また、タイやシンガポール、香港といった、これまであまり関わりのなかった区とも関わりをもち、ソーシャルネットワークを利用して、アジアエリアユースたちと頻りにコミュニケーションをとっていききたいと熱く語った。2013年からAYRをつとめた沖 麻実さんは、新AYRのメンターとして、Candyのサポート役となる。

今後2年間のCandy Linさんの活躍に大いに期待をしている。

## 各国文化発表×キャンプファイヤー

ナイジェリア、中国、モンゴル、台湾、フィリピン、日本の6か国8グループがそれぞれ歌やダンス、伝統楽器を使ったパフォーマンスを全員の前で披露し、とても盛り上がったプログラムだった。

私たち西日本区メンバーはソーラン節のグループとAKB48のヘビーローテーションを踊るグループに分かれ、パフォーマンスした。当日までメンバーで集まって練習することは難しく、LINEを使って大まかな話は進められた。

感心させられたのは、発表を見ている参加者ユースの態度である。発表者を



盛り上げようと手拍子をしてあげたり、一緒になって踊ってあげたりと、場の雰囲気全員が盛り上げようとする姿勢は凄いなと思った。参加者の中がより一層深まったプログラムだった。文化発表が終わるとそのまま野外にあるキャンプファイヤー施設へ移動。燃え盛る火を円になって皆で囲み、ここでも全員でダンスを踊った。

一番活躍してくれたのはYMCAのリーダである。子どものキャンプ等の参加経験がある彼は盛り上げ上手で、笑いがたえない楽しいひと時であった。最後には一人一人がAYCを振り返って感じたことを一言ずつ述べていった。この出会に感謝したいありがとうと、参加者ユースの絆が固く結ばれていることを感じた瞬間であった。



## 募金

世界約 20 か国の若い人々を支援している Y Care International。今回 AYC ではその Y Care International が取り組む「Life Starter」のプロジェクトを支援するため、参加者同士で募金を募った。このプロジェクトは 2014 年の IYC で始められた取り組みで、発展途上国の若者たちのため、彼らのコミュニティのため、さまざま職業訓練キットを提供し彼らの生活を支援するというものだ。このプロジェクト実現のためには 5000 ドルの募金を募ることが目標として掲げられている。AYC のプログラムを通して、「Life Starter」プロジェクトについて理解を深めた私たちは、このプロジェクトを支援するべく、今、自分たちのできる最善のこととして募金を行い、最後には、このプロジェクトへの支援をアピールするために「We Donated!」という言葉掲げて写真撮影をした。今回集められた 22,029 円の募金は先日 Y Care International に送られ、全額プロジェクトのために使われることになっている。この小さな支援により、世界で厳しい生活を強いられている、私たちと同世代の若い人々がより豊かな日々を過ごせるようお願いしたい。



## 京都市内観光

あうる京北を後にして私たちは京都市内へと向かった。最初に訪れたのは京都の代表的な観光名所、金閣寺。日本の神社仏閣の中でも特に煌びやかで荘厳なその姿に、海外の参加者はもちろん、多くの日本人も心を奪われていた。金閣寺で心が清められたあとは、京都市内の散策だ。いくつかのチームに分かれて京都の中心街、三条・四条界隈を巡った。「京都の台所」を呼ばれる錦市場は活気にあふれ、特に海外からの参加者は、店先の品物を見ては好奇心で目を輝かせていた。そんな彼らから聞かれる「あれは何」「これはどうしてこうなのか」という質問に、英語で一生懸命説明する日本人参加者の姿も多くみられた。そして普段、日本人が生活する中では疑問に思ったことのないような質問を受けては、あらためて考えるとなぜそうなのかと、日本人としていつもと違った視点から日本文化について新たに気づかされることも多くあった。また、こうして海外の参加者とこうして一緒に町を歩きながら、日本の日常の風景を紹介することができたのは互いにとって価値のある時間になったと思う。





## AP ナイト

AYC と並行して行われていた、ワイズメンズクラブアジア地域大会と合流する AP ナイトへは普段着とは違ったフォーマルに服を身に着け、着飾って向かった。京都ウェスティンホテルの大宴会場に足を踏み入れたとき、まずその規模と参加者の多さに圧倒された。プログラムの中で、アジア各国はもちろん、世界中でワイズメンズクラブに関わっている方たちの報告に耳を傾けながら、ワイズメンズクラブにこれほど多くの方が世界中で活動しているという事実には驚かされ、またこの中に私たちユースがその一員になれたことを少し誇らしく感じた。そして多くの方が私たちユース世代に期待が寄せてくださっていて、この場で受けた刺激や AYC で学んだことを今後も生かしていかなければいけないと強く思った。諸報告が終わったあとは AYC で練習を重ねたダンスのお披露目だ。舞台裏では皆少し顔をこわばらせ緊張した面持ちだったが、いざ舞台にでると会場の声援に後押しされ、皆が開放的に、自由に、力いっぱい踊った。年齢、性別、国籍も関係なく、歌やダンスを通して会場と私たちとが一体となった瞬間だった。と同時に新たな AYR、Candy Lin の誕生を祝福できたことをうれしく思う。ダンスの後も多くの方のお話をしに来てくださり、とても素敵な時間を過ごすことができた。



## アジア大会閉会式 AYC レポート

### 直前 AYR 沖 麻実

皆さん、こんにちは。私は 2013 年から 2015 年の任期でアジア地域ユース代表(AYR)を務めました沖 麻実と、今回の AYC で新 AYR に選ばれた Candy Lin です。2015 年 7 月 29 日(水)から 8 月 2 日(日)に京都にて開催されました、アジアユースコンボケーションの報告の機会を与えていただきとても感謝しています。“Learning to Have Peace- What can we do?” “平和な世界を築くため、私たちには何ができるのか?”といったテーマのもと、東西日本、台湾、フィリピン、中国、モンゴル、そしてナイジェリアからの国際ユース代表 (IYR) 計 48 名のユースが参加しました。最初に、なぜ今回の 2015AYC 京都のテーマを平和とし、またどのようにして企画をおこなったのについて述べたいと思います。約 1 年前より、AYC 実行委員会の方たち(京都キャピタルワイズメンズクラブ)と一緒に、本格的に 2015 AYC の企画に取り掛かり、また新たに AYC ユース実行委員会を立ち上げました。ユース実行委員会は、これまでユースコンボケーションに参加したことのある経験者や、そこでできた繋がりを活かして、台湾と日本よりそれぞれ 3 名ずつ、(Candy Lin, Alice Tu, Ann Yen, 沖 麻実, 二之方 良枝, 吉村 尚馬)そしてサポーターの IYR( Afolabi Ajomale)を含めた 7 名のメンバーによって結成されました。まず 2015AYC 京都のテーマを考えました。「組織」「ユースコンボケーション」「個人」の 3 つの観点からそれぞれが目指すゴールとは何かを最初に考え、それらをもとにテーマを決めました。

### No. 1 ワイズメンズクラブの組織が目指すゴール

ワイズメンズが掲げるミッション、モットーとは何かを改めて考えました。イエスキリスト教の教えに基づき、YMCA 事業をサポートすることを目的としながら、慈善活動を行っていく先に、最終的に“平和”というキーワードに辿りつきました。

### No.2 2015 AYC 京都が目指すゴール

この AYC が参加者にとって、自分の新しい可能性に気が付くきっかけになることを望んでいました。そこで、個人でも平和な世界のために変化を起こせる一人である(Change Maker になれる)という意識を持ってもらうといった目標を 2015AYC が目指すゴールの一つにしました。また、アクションを起こし、変化を起こせる、その“ツール”としてアクションプラン作成をプログラムに取り入れるようにしました。

### No.3 個人(AYR)のゴール

ユースコンボケーションは海外のユースたちと交流ができる、とても貴重な機会なので、参加者ユースには、この出逢いの場を活用し、アジアユース間での強い絆を築いてもらうことを強く望んでいました。国境を越えた繋がりこそ、平和な世界に必要なものだと考えました。

以上の 3 つを踏まえ、AYC のテーマ(Learning to have peace -What can we do?)を決めました。次に、このコンボケーションをどのように企画したかについて説明をします。

平和といっても、とても抽象的なので、平和を色々な視点から眺め考えることができるよう、3つのトピックをつくりました。そのトピックは、「戦争」「環境問題」「異文化理解」です。プログラムは5日間と、平和について考え、アクションプランを作成するにはあまりにも短すぎます。そこでこの問題を解決するために考えた案が、事前課題を与えることでした。実際2つの事前課題を参加者へ出しました。1つは“あなたにとっての平和とは？”という個人の平和について考えてもらう課題で、 + Me= Peace という式をつくり、 の中にあなたの言葉を入れるなら何？という問いかけを一緒に行うことで、より鮮明なイメージを持っていただく工夫を取り入れました。2つ目は、「戦争」「環境問題」「異文化理解」の3つピックの中で興味があるものを参加者自身が一つ選び、選んだトピックに関連した問題を考えます。そこからどのようにその問題が解決できるかを問う課題をだしました。これはアクションプラン計画の練習の意味も込められています。この事前課題をもとに、各セッションを行い、また各プログラムの内容が3つのトピックに関連したものであるよう、企画をする際に意識をしました。 つづいて、AYCで私たちが実際にどんなことを体験し、取り組んだのか Candy Lin より報告します。

## 新AYR Candy Lin

最初にロニーアレキサンダーさんの講演を聞きました。講演では、“平和とは何か”を考えるのではなく、“平和でない状況”を考えることから始めました。「いじめ」「暴力」「貧困」「放射能」といったいくつかの“平和でない状況”があげられ、その状況を自己に置き換えて考えました。また、どの問題が一番身近に感じるか、実際に身体を使って、その問題との距離間を視覚的に表現するアクティビティーがありました。世界で起こっている戦争についても学びましたが、中でも重要だと思ったのは、実際に“平和でない状況”から“平和な状況”へ変えるにはどうしたらいいか、アクティビティーを通じて、参加者全員で実践しながら一緒に考え学べたことです。スティーブン・リーパーさんの講演では、主に戦争に重点をおいたお話をされました。国同士の間で起こる競争が戦争を引き起こすといった、戦争が起こる理由や、また状況を変えるために実際に取り組まれているアクションについて聞くことができました。2人の講演から私たちが学んだことは、平和とは互いを尊重し合う“尊敬”人と自然が均等な関係である“自然と人間との共存”そして“愛”であるということです。

## アクションプラン

参加者がそれぞれの国に帰国した後、アクションをすぐに起こすことを望んでいました。そこでプログラム中に作成するアクションプランに対し、詳細なガイダンスを作成しました。まずアクションプランの期間を6ヵ月にしました。この期間は、彼らに集中的にアクションプランに取り組んで欲しい期間とし、もちろん6ヵ月を経過しても、そのアクションを継続的に行うことも可能です。また、それぞれのグループアクションプランの要約を9/14(月)までに提出していただき、AYCから6ヵ月後の2/14(日)に、実際にアクションを行ってのレポート提出をしてもらうといったスケジュールにしました。このレポートは、彼らがどんなことに取り組んだのかという記録の為のレポートです。今回は、アクションプラングループをそれぞれの区ごとで分けました。東日本、西日本、西日本、台北、台中、そしてインターナショナルグループの6つです。彼らのプランはAYCの3つのキートピック(戦争・環境問題・異文化理解)がもとになっています。

## エクスカーション・フェローシップ

### 1. かやぶきの里見学

プログラムに真剣に取り組む一方で、私たちの親交を深める楽しい時間もありました。エクスカーションでは、かやぶきの里へ行きました。自然素材を活用し、日本の伝統的建築方法で建てられた、かやぶきの家がある場所です。また人と自然との共存という点から、コンボケーショントピックの一つである「環境問題」に関連付けています。ガイドを担当された方が、英語が話せない為、参加者の協力を得て通訳チームをつくり、グループごとで参加者による通訳を行っていただきました。そのことがきっかけとなって、参加者同士の仲をさらに深めることができましたと思います。かやぶきの里の後は、由良川で「鮎つかみ」を楽しみました。

### 2. 文化発表

コンボケーションで一番盛り上がるプログラムは、なんといっても文化発表です。区ごとにグループをつくり、この日のためにそれぞれが時間を掛けて準備してきました。国紹介のプレゼンテーションを行ったり、伝統的な衣装を身にまとしてダンスを踊ったり、歌を歌ったりと、どの発表も素晴らしく、とても楽しい時間でした。

### 参加者からのフィードバック

全体的にとっても良いコンボケーションであったという意見を参加者より聞いています。しかし、同じ区別で取り組んだアクションプランに掛ける時間が長かったため、国別で取り組む活動時間が少なかったという指摘もありました。しかし、他国の人たちとの意見交換する時間もあって、とても良い経験になったというフィードバックもありました。反省点も含め、2年後のAYCに是非活かしていきたいと思います。





## 想いを形に

直前アジア地域コース代表  
福山 YMCA 外語学院職員  
沖 麻実

アジアエリアコースコンボケーション（AYC）を無事に終えることができ、香山 AYC 実行委員長をはじめとした AYC 実行委員の皆さま、コース実行委員の仲間達、そして AYC 参加者コースの皆さんには心より感謝いたします。

5日間の限られたプログラムでしたが、委員の皆さまとは約1年以上の長期に渡り準備に取り組んでできました。

AYC 企画のお願いを受けたとき、期待と同時に不安もありました。経験が豊富というわけではなく、ゼロの状態からつ



くりあげていかなければならなかったからです。実際に、準備の過程でさまざまな課題に直面しながらも、当日安心してプログラムを進めることができたのも、ホストの皆さまの親身な対応やきめ細かいサポートがあったからだと思っています。6人+国際コース代表（IYR）で構成されたコース委員は、過去のコンボケーションと一緒に参加した仲間や、ワイズの繋がりを活かして呼び掛けたメンバーで、当日はプログラムを進行する中心メンバーとして活躍してくれました。嫌な顔1つせず、快くお願いを引き受けてくれる仲間たちの存在に何度救われたことでしょうか。周囲の状況をみながら率先して行動を起こせる二之方さん、自分の役割を着実にこなし、参加者と積極的に交流をはかる吉村くん、通訳として言語の壁を取り除き大活躍してくれた Candy と Alice（台湾）、参加者同士の結束力を固めてくれた Ann（台湾）、これまでの豊富な経験を活かし、プログラムをリードしてくれた IYR の Fola（ナイジェリア）。信頼のおけるコース委員の仲間に恵まれ、そして積極的にプログラムに参加し、盛り上げてくれた参加者コースの皆さんのおかげで、素晴らしい AYC になりました。参加者の皆さんの中には、コースコンボケーションがよく分からず、また英語漬けの日々に不安を感じていた方もいたと思います。最初は緊張の面持ちの様子でしたが、終盤になるとそれぞれが交流を楽しんでいる姿をみることができ、本当に嬉しかったです。言語や国境を越えた、共通の楽しいひと時を過ごした経験は、大切な思い出として皆さんの心に残ると思います。

コース代表の期間の間、立場を意識するあまり、プレッシャーに押しつぶされそうになったこともありましたが、しかし、そんな時に温かい声を掛けてくださった方達や、皆さまの応援に支えられながら、こうして2年間を終えることができました。コース代表の経験は、今後の活動の中で必ず生きていくと思いますし、何よりもコース代表を経験することができて良かったと思っています。ワイズ、YMCA、コースの関係を通して、素晴らしい出逢いが沢山ありました。今後もこのご縁を大切にしていきたいです。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

## 2つの変化

広島女学院大学 学生 YMCA  
二之方 良枝

今回の AYC2015, 京都は私にとって、IYC2014, Chennai に続く 2 度目のユースコンボケーションでした。AYC の本番 5 日間の中での私の一番の驚きは、「自分の中の変化」です。前は自分がいかにこのチャンスを楽しむかに必死で、どうやって他の参加者と仲良くなろうか、何を話そうか、そんなことを考えてずっとおどおどしていました。しかし、今回の AYC では、参加者ユースを迎えた瞬間から「Welcome~！」と、自分でも驚くほど誰よりもオープンで楽しんでいる自分がいました。



(前列左 二之方 良枝さん)

この私の変化は周りにも大きく伝わったようで、期間中、IYR の Afolabi には「Is that really Yoshie that I met in India?!」(本当にインドで会ったあの良枝なの!?)と驚かせるほどでした。誰よりも大きな声で率先して喋り、常にたくさんの人と時間を過ごし笑い合う。そんな当たり前に「私らしくいること」が、今回は自然と出来ていました。

もう一つの自分自身の大きな変化は、「一番嬉しいこと」が変わったことです。前回のインドでは参加者ユースに話しかけられたり、一緒に写真を撮ったり、自分が充実していることが一番嬉しく、楽しく感じていました。しかし、今回の AYC では、他の参加者ユース同士が楽しそうに話していること、遊んだり、写真を撮ったりしていることが、なによりも嬉しく感じました。前回の報告会でお話した「私がユースコンボケーションで得た素晴らしい経験を一人でも多くのユースに経験してほしい」という願いを、自分が実現している。それが、自分が楽しいということ以上に、心から幸せに感じたのです。この自分自身の変化は、ユースコミッティのメンバーとして活動させていただいたからこそ実感することができたものです。コミッティメンバー、ましてサブリーダーとしてはまだまだでしたが、この機会を与えていただいたことに、心から感謝しています。

私にとっての AYC2015 を一言で表すと、「希望」です。IYC での経験を通して自分自身が大きく「飛躍」したことを身をもって実感し、今後の自分のさらなる成長に希望を持つことができました。ユースのみんなとの出会いという奇跡と、その奇跡を実現してくださったワイズメンズクラブの皆様、心より感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。

## 今やるべきこと、できること

ワイズコメント  
吉村 尚馬



(中心 吉村 尚馬さん)

今回、去年のIYCのご縁からAYC in kyotoに参加させていただいてありがとうございます。このイベントは学ぶべきことが多く、今後の人生の上でかけがえのない経験となると思い、このお話をいただいた時に二つ返事でお答えしました。去年と大きく違うところは僕が参加者としてではなく、企画者として参加することでした。英語力もいささか物足りなく、また同じ委員会の仲間たちは才能溢れる人ばかりで自分の能力に不安を持っていました。しかし、そんな僕でも必要だと言ってくれた沖さん、そして至らないところも十二分にカバーしてくれた仲間たちととても良いAYCを作ることができたと思います。

今回はPEACE、平和について考えるというのが大きな目的でした。そこでグループで分かれてディスカッションをしている時、国を問わずみんな似たような意見を持っているということがわかりました。「戦争はだめだ、でもなくすことはできない」、「異文化を理解するにはお互いのことを尊敬することが大切だ」、僕が参加したグループではこの意見しか出なかったです。

僕は一番参加者に近い委員でした。前に出てぐいぐい引っ張るニノ方さん、台湾人と日本人の懸け橋となるCandy, Alice、自分担当のイベントをしっかりと作り上げるAnne、そんな中でポツンと立っていたのが僕でした。僕が担当したのは司会進行ぐらいなので、用意された原稿を読むだけ、Candyに発音やイントネーションなどを教えてもらい、練習するぐらいで、他の委員会より明らかに仕事量が少なかったです。だから他のみんなが次の日の担当のイベントの準備で忙しい中、僕は参加者のみんなと話すようにしていました。そこでいろいろな話、ここは楽しかった、ここはこうした方がいいと思った、プラスの意見からマイナスの意見、いろいろありました。このことを他の委員会の人に伝えました。僕たちが今必要なことは、今すべきことではなくできることをすることが大切だと思いました。理想は大切です、しかし結果に結び付くのはできることをすること。それを今回のAYCで学びました。

この素晴らしい機会を用意して運営のお手伝いをいただいたワイズメンの皆様、またこの企画のために協力してくださった皆様にこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。

Thank you for a good time!

## AYC 参加報告

広島 YMCA リーダー  
桑原 ケビン 清治

まず初めに、今回の AYC (Asia Youth Convocation) に参加するにあたって支援して頂いた、ワイズメンズの皆様、そして後押しして下さった広島 YMCA の職員の方々にお礼申し上げます。今回のプログラムで大変多くのことを学ぶことができたのはひとえに多くの方々の支援があったからだと思っています。本当にありがとうございます。私にとって、この AYC は人生で3度目の国際交流プログラムへの参加でした。そして3度目にして多くの”初めて”を経験することができた



プログラムだったと思います。特に川で行った鮎掴みは私にとって本当に初めての経験で、とても新鮮かつ楽しいものでした。最後まで鮎を掴むことはできませんでしたが、ワイズの方が焼いてくださった鮎がとてもおいしく、感動しました。また、かやぶきの里への訪問は私にとって今までにない経験のひとつでした。日本の伝統的な文化を今でも大事に守り続けている姿勢にとっても感銘を受けましたし、同時にそうした伝統的な建造物に外の人間を招くことによって伝統的な文化の継承であったり、大切さを伝え続けていることは今後もそうした文化が続いていくために重要であり、今後もぜひ続けていただきたいと強く感じました。こうした多くの”初めて”に触発され、今振り返ってみても、言葉では語りきれないほどの多くの経験をすることができた今回の AYC ですが、私にとってこの AYC はもうひとつ大きな意味を持っています。それはたくさんの”悔しい”という経験を得ることができたからです。先に述べたように私にとって今回のプログラムは3度目の国際交流、実際に外国の方々や英語を使う3度目の機会でした。それだけに以前と比べ緊張はありませんでしたし、ある程度余裕を持って会話であったり自分の意見を言うことができたと思っています。ですが、自分が本当に言いたいことや相手の言いたいことを伝えたり、聞き取ることが何度かできずもどかしい思いにとらわれることがありました。何度か国際交流を経た上でのそうした経験だけに自分にとっても本当に悔しいものでした。また、AYC の直後に広島 Y の私が所属している部署で企画運営する国際交流があったり、その後台湾へ国際交流に行く予定があったりと、準備等で頭がいっぱいで 120%楽しむことができたかどうか正直自信はありません。ただ、今回私が得ることができたこの”初めて”の経験、”悔しい”という思い、そして何よりも日本をはじめとして、台湾、フィリピンなどの国々の友達との”絆”はこれからの私の人生でも必ず生きてくる本当に大切な宝物だと思っています。たくさんの方々の支えがあり、今回の企画に携わることができたことを本当に誇りに思います。最後にはなりますが、今回の AYC という素晴らしい企画を実現する際に尽力して下さったワイズメンズの方々をはじめ、最終日まで寝ずに運営のために身を粉にしてがんばってくださった沖さんや二之方さん、Candy たちに感謝したいと思います。私にとって AYC での思い出はすべて宝物です。今後は AYC2015 の参加者として恥じないように英語をはじめさまざまな言語に挑戦し、多くの人とかかわりを持てるように頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。



## 異文化理解へ向けて

京都大学 学生 YMCA シニア  
中島 敬之

国際会議・国際プログラムに参加する度に思う事として「世界はこんなにも開かれているのか」ということがあります。大学院に進学し、日々専門性を高め視野が狭くなっていく日々を過ごす中で、自分の研究はどのような価値があるのかという疑問が常に絶えることはありません。今回はそのような生き苦しさを感ずる中での参加となりました。



世界単位での問題にアプローチを行いながらも自分自身の問題と向き合う時間を取れるYMCA・Y'sのプログラムには何度救われてきたか分かりません。興味がない人には鼻で笑われてしまうかもしれないような途方もなく大きな問題に向き合い、自分の非力さと可能性を感じることのできる贅沢な時間を体験できる場面に再び立ち会えたこと、非常に感謝いたします。各々が持っている体験・知識が異なるために、意思疎通がうまく行かず、時にはぶつかることもありましたが、互いに思いをぶつけあいながら一步一步事を進めていく経験はなかなか他では得難いことだと感じます。

私は今回「異文化理解」をメインピックとして選択し、同じ異文化理解へ興味を持つ仲間たちとアクションプランの作成に取り組みました。年齢も高校生から最年長の私まで10歳ほどの年の差もありましたが、互いに理想と現実の線引きをうまく行いながら作業を進めていくことができ、年齢で何かを測ることが如何にナンセンスなのかを感じることができました。しかし、当然顔を初めて合わせてから数日のメンバーで今後の何か大きな動きを決定することは難しく、夜遅くまで話し合うこともありました。

異文化とは、食事が違う、言葉が違う、服装が違うとか言ったことだけでなく、日常の所作に対する印象の持ち方が違う、ちょっとした時に放つ一言に対する印象が違うといったことが日々の生活での歪みを生み出します。異文化理解のために「何かを当然のものとして理解する」ということが必要となりますが、無理な共感や受容を求めることは本来なら苦痛なのですが、日本では同調圧力のもとで過剰な共感・受容が是とされる傾向が強いのかと思います。海外からの参加者、留学経験者、帰国子女、日本から出たことない人など様々な文化が混在している中でそのようなことを感じた5日間となりました。

## 本音

ワイズコメント  
香山 紫保

まず今回貴重な経験を頂いたことに、心から感謝を申し上げます。そしてこのプログラムを運営して下さったホストコミッティの方々、進行して下さった沖さんを初めとするスタッフの方々、充実した時間を共に過ごして下さった参加者の皆様、本当にありがとうございました。参加したきっかけは、父の紹介でした。1年カナダに行く予定なので、その前に先に海外の人と関われるチャンスがあるのなら、と思い決めました。私は英語が片言レベルですし不安でしたが、そこで出会った方は本当にみなさん良い人ばかりで英語力の向上心に更に勢いが付きました。



(左 香山 紫保さん)

プログラム中に特に印象的だったことを3つ書こうと思います。

一つ目は「びっくりするぐらい英語で発信できない。」です(笑)しかも私の悪い癖で話を着ている時に、分かったふりをしてしまうからさらに大変でした。中盤からそこで出会った友人の助言のもと「分からないことは分からない」言えるようになったので大きな進歩だと思います(笑) みなさんとても親切で、感謝しかありません。

二つ目は「リーパー先生の環境破壊についての公演」です。現代を生きる私たちが少しでも生活を見直してエネルギーの使い方を変えなければ、2048年には今日人が住んでいるある島が沈むという話がありました。今も着々と水位は上がってきていると彼は言います。私は複雑でした。環境破壊の阻止に協力するためには身近に感じる事が大切です。しかし私はそこに住む人々のことを知りません。その事実はとても悲惨な話なのに私にとっては現実的ではないのです。私の思考は極端な話、地球と共存するためには文明をすてるのが一番だとさえ思います。ですがそうは言ってられないので、まずは節電から始めようと思います。

最後三つ目は「異文化理解」です。プログラムで最後国別に分かれて自分たちの今後のアクションプランを考えました。発表後他の班から発表について意見をもらいます。私の班はチームプレーのつもりで、みんなで少しずつ発言をする発表方法を取りましたが、他の班からは結構批判的な意見もありました。その時に異文化理解で大切なのは、理解してもらえなかった時に、いかに相手の意見を尊重して受け止めて次に繋げることができるかだと思います。本当に「充実」の一言に尽きる5日間でした。改めてお礼を申し上げます。有難うございました。

## Asia Youth Convocation 感想

ワイズマゴメット  
三木 遙加

今回ワイズメンズクラブのプログラムに参加したのは初めてで、正直メールの文面だけではどういう内容か深く理解しておらず、プログラムの初めは少し不安な部分もあったが、最後にはとても充実したものとなり参加して本当に良かったと思う。このプログラムのテーマである平和。まず私は平和について考える課題をとっても難しく感じた。友達に意見を聞くなどして自分にとっての



(右 三木 遙加さん)

平和の意味を探そうとしたが、最終的には考えるほど答えが分からなくなる、答えのない問題と感じた。ただ、それと同時に、その考える行程が大事だという、答えの簡単に出ない抽象的な平和について考えることの重要さに気が付いた。平和学習の中で一番衝撃的だったのはアレキサンダー教授の講義だった。当たり前かもしれないが、平和という言葉は、戦場や、環境汚染、各種格差等からくるものだけでなく、ごく普通の日常の中にも存在する言葉なのだと再認識したのだ。抽象的な言葉はその受け取り方が人それぞれ本当に異なる故に、定義を決めること自体が難しい。それを様々な文化を持つ仲間達と真剣に話し合うことができ、互いに価値観を広めることができたと思う。

AYC 以前にはあまり友達のいなかった国の友達を作り、交流することにより、同じアジア内の文化の共通点や、微妙に似ている違い等面白い情報を共有することができた。夜中にフィリピン人と台湾人のルームメイト達とこの話をした時間は特に掛け替えのない時間となった。一番驚いたことは、同世代のフィリピン人の女の子が相撲の大ファンで熱心に語ってくれたこと。う国の文化でも、自国の若者でなく外国の若者が好きになることもあるのだと変に感心した。(笑) 今まで小学生の時に修学旅行で広島へ、中学生では沖縄に行った時ぐらいいしか平和について考えたことがなかった。勿論その時も被爆者の声を聞いたり、ひめゆりの本を読んだりと真剣に考えたが、それは戦争について日本側から見た平和についての考えだった。しかし、今回このプログラムに参加し、色々な角度から平和について考えることができたと思う。世界に必要なことと考えてはいたが正直自分にはあまり縁のないトピックだと思っていたからこそ、今回のプログラムで平和について学び、みんなで考えることで、平和は私達にとって全く遠いものでなく、一人一人に関係することだと考えられるようになった。そして、それを行動に移すことで本当に世界を動かすこともできるかもしれないと思うようになった。AYC以降、日常生活の中で起こる沢山のことを自然と「平和」と結びつけて考えるようになってきているなど、自分の中での変化に一番自分が驚いている。(笑) 現在グループで進めているアクティブプランを通じ、世界が平和になる手助けになることを願う。

AYCに参加させて頂き、本当にありがとうございました。

## AYC に参加して

姫路 YMCA リーダー  
長尾 匡浩



この夏、アジアユースコンボケーションに参加し、私自身、大きく物事を考えることができたいい機会であったと感じます。京都に行く前に、事前のオリエンテーションを通し、英語が苦手な自分にとって、正直な気持ちは不安な気持ちでしかなく、行くことをためらうほどでした。英語を話すことが苦手なうえに、少しばかりの人見知りから、ほかの参加者たちとコミュニケーションをとることができるのかも不安材料でした。いざ、AYC が始まると周りの参加者の方々は本当に楽しみにしていたかのように、周りの人たちと楽しく会話をしている中、自分は、言葉の壁のようなものを感じどういったことを話せばいいのかわかりませんが、気さくに周りの方々が話しかけてくださり、たくさん話をするので 5 日間を通して過ごしていけそうだと感じました。2 日目からのセッションをしていく中で、言葉が理解しにくいことを、日本語に訳して下さったりとフォローを入れて下さったり、話すことが苦手なら、日本語で話した後に、訳すよとやさしく言葉かけをしてく下さったりと周りにいるたくさんの方々に助けていただいたなと感謝の気持ちでいっぱいでした。そのほかの活動でも、言葉で話すことよりも行動で表すことでも相手に通じることを実感しました。私にとって一番の良き思い出は 3 日目に行ったキャンプファイヤーが自分自身の本来の力を発揮できたと思いました。普段、YMCA で野外活動リーダーをしていることからキャンプファイヤーで盛り上げることが好きでした。周りにもそれを知っていた上で、前に出て盛り上げてと声をかけられ急ぎょ出ることになり、英語で話すことができない自分は説明するのが難しいので、身体を使った遊びと簡単な掛け声を使うことで、楽しくできたと思う気持ちとそこから周りの人たちからの評価も変わったのかたくさん話したことがない人とも会話することができ、翌日に控えたアクションプランの発表に向けて、同じ日本の方々と有意義な時間を過ごすことができ、はじめは不安な気持ちでしかなかったものが、別れることが嫌になっていました。それだけこの AYC というのは、自分にとって素晴らしい経験でした。



## A Y C 感想

啓明学院高校  
田中 絵梨果



(右端 田中 絵梨果さん)

A Y Cに参加したのが今年で初めてである。学校を通してA Y Cのことを知って、自分が今までやったことのないものにチャレンジしようと思い、応募したのがきっかけである。私はアメリカでの在住・留学経験によって、多くのアメリカ人に触れ合うことができた。しかし、アジアの地域から来た人とは交流する機会が今までなかったので、このプログラムを通して彼らと意見交換をして、お互いの文化を紹介して理解を深められたのでとてもいい経験になった。このプログラムが始まったとき、英語は私にとって問題ないと思っていました。そう油断していた私は、相手と交流するためには英語が一番必要ではないことに気づきました。なぜならば、英語は一つのツールであるため、知識だけあっても相手と真剣な交流はできない。相手と交流するためには、相手の国について多少知識も必要だったり、聞くときの姿勢も気をつけないといけないことが分かった。その上、今の国際社会における問題などに対してしっかり自分の意見を持つことが必要なのを身にしました。

彼らとの交流をきっかけに、日本の情勢や政策について知識を得て自分の考えが言えるようになりたいと思うようになった。A Y Cでは真剣なディスカッションセッションの場でお互いの意見を聞いて交流する場を設けると共に、魚とりや金閣寺散策など皆と楽しく時間をすごして交流ができたためとても深い交流ができた。日本以外からのコースと楽しく交流する時があったおかげで、一人一人のバックグラウンドや意外なことを知ることができて、国際交流を超える人間交流をしたように思えた。

過去に何回か学校の授業で平和のために何をすべきかをクラスで話し合ったことがある。解決策を考えたら、私たちもそこで終わっていた。しかしA Y Cは違った。A Y Cでは平和のために私たちが身近にできることを考え、実行するまでのプランを計画した。プランの計画を通して、平和は身近なものから築けていったら平和も形だけでなく、実際に私の小さな力で築けていけることを知った。

A Y Cを通して新たに多くの友達ができた。来年台湾で開催される国際ユース大会で彼らと会うことを私は楽しみにしている。このプログラムをとおして他のアジア人と交流することができたと共に、自分が今まで気づけなかったことに気づくことができ、私にとってとてもいい経験になった。

## 学んだこと

ワイズマゴメット

畠平 くるみ



今回AYCに参加させて頂く事になったきっかけは、平和のために何かを考えたいという思いがあったわけでもなく、ただワイズメンズクラブに所属している祖父に「せっかくの機会だから行ってみたら？」と言われ、楽しそうって思ったからというだけでした。

楽しみもありましたが、初参加ということもあり、不安の中実際に行ってみると思っていたよりも参加しやすい雰囲気日本人の方

以外の方も話しかけて頂いたので、普段話すことがないような方とも話すことができ、様々な事を感じることが出来ました。今まで学校の授業や行事などで自分が持っていない文化を持つ方の話を聞いたり、それについて友人と話し合ったりする機会はあったのですが、あまり深く考えたことが無かったのでアクションプランを考える上で私は「異文化理解」を選択しました。普段話すことの無い方たちとひとつの話題について話すことによって、自分には無い考えや解決方法を聞くことができました。様々な意見を聞いていると、ひとつの意見だけが正解だというわけではない時があるからもっと物事を柔軟に捉えたほうがいいのか？と思いました。また異文化を理解するのもそういうところが大事なのかなと思いました。いろんな方に助けていただいたり、話を振ってくださったので自分がいつもあやふやにしか考えていなかった問題について真剣に向き合うことができ、人によって同じ問題でも色んな捉え方をしている時には全く違う考えを持っているので解決方法も異なってくるということや、ただでさえ同じ国の中での文化の違いを理解することが難しいのに言語も習慣、信じるものが違う文化を理解することの難しさを感じることが出来ました。また、授業で習っている英語が思っていた以上に会話をする時に役に立っているということや、語彙力が全然足りないという事と話すのがあまり得意ではないことに気付くことが出来ました。そんなことからちょっとした好奇心で参加したAYCでしたが自分にとって実りの多いものになったのではないかと思います。

## 「学ぶ」おもしろさ

京都 YMCA 職員  
關 つぐみ

今回、アジアユースコンボケーションに初めて参加させていただきました。さまざまな文化背景をもつ同世代の仲間たちと「平和」について議論し、時には夜遅くまで熱く語り合うなど、忘れられない貴重な経験をすることができました。普段日常の業務に追われ、「学ぶ」という機会から遠ざかっていた私にとって、ロニー・アレキサンダーさんやスティーブン・リーパーさんの講演、セッションやアクションプランの作成



などすべてが新鮮で、「学ぶ」ということが、こんなにも（前列右から2番目 關 つぐみさん）おもしろいものだったということをおぼろげに思い出させてもらいました。その中でも特に、リーパーさんの講演が印象深く残っています。広島の大らかな土地に人と自然がともに生きる持続可能な環境をつくり、さまざまなワークを通して人と人のふれあいの場も生み出すという Peace Culture Village の構想は斬新で、好奇心をくすぐられました。「平和な世界のためには何ができるのか」という問いに向き合い続けてきたリーパーさんの一つの答えが、この村なのかもしれないと思うと、平和な世界のために果たして自分に何ができるのだろう、自分はこれからどんな答えを出せるのだろうと考えさせられました。今後も「平和」というトピックについて学びを深め、いつかリーパーさんのプロジェクトに関わり、自分なりの答えを出してみたいと思います。

そして言語や文化の違いによらず、参加者皆が、すべてのプログラムに本気で取り組み、お互いのことを本気で分かり合おうとしていたことが素晴らしかったです。互いを尊重し、心が通わせれば、言葉は関係ありませんでした。言葉よりコミュニケーション。この言葉をとても強く感じた5日間でした。そして、皆がこうした姿勢もつことこそが平和への第一歩だと思います。

今後の業務でも、自分の「学び」の機会を大切にしながら、平和な世界のために今自分に何ができるのかを考え、できることからチャレンジしていきたいと思います。

最後に、2015 アジアユースコンボケーション京都に参加させていただき本当にありがとうございました。このコンボケーションに関わってくださった皆様に感謝いたします。

## 私のたからもの

啓明学院高校  
守本 紘菜



(前列 左 守本 紘菜さん)

私は今回初めて AYC に参加させていただきました。AYC で出会った人々とのつながり、かけがえのない経験は私にとって宝物になりました。しかし、AYC に行く前は不安しかなかったです。日本語が全く通じない人と関わるのは初めてだったことと、1 番の不安要素は英語が上手く話せないということでした。上手く話せないから英語で話すことにも抵抗がありました。そんな不安の中で迎えた当日、プログラムが英語で進んでいく中で何を言っているかわからないことが多々あり、どんどん不安は大きくなっていきました。しかしその日の晩、同じ部屋の台湾の何人かの子が私に話しかけてくれました。それがきっかけとなってその後も、電子辞書を使いながらの拙い英語で会話する中で私の中の不安は少しずつなくなっていきました。また、2 日目、3 日目とプログラムが進む中で、私たちは"平和"について考え、平和を実現するためのアクションプランを考えました。私の班のアクションプランは、Facebook を使って戦争や平和についての情報発信を行う「Peace Magazine」というプランです。戦争を知らない人が増えている中で"知る"ということが大切で、知った上で一人でも多くの人が戦争、平和について考えることが平和につながるのではという考えにもとでこのアクションプランを考えました。それぞれが平和・戦争の知識やそれらに対する考え方を熱弁したり、平和から連想される言葉を考えたりなど、班のディスカッションは白熱し、興味深くおもしろかったです。私の班は、全員 AYC で初めて出会った方ばかりだったので、もちろん私とは見聞きしてきたこと、経験してきたことは全く違います。そのため、「そうかこうゆう視点もあるのか」という驚きも何度もありました。このように色々な人の様々な価値観に出会えたこともこの AYC で得た宝物の一つです。このように私は AYC でたくさんの宝物を得ました。初めは不安でしかなかった英語も AYC の終わりには上手く話せないけど抵抗なくしゃべれるようになりました。AYC で出会った台湾の友達が「はじめより英語上手くなってるね!」と言ってくれたのはすごく嬉しかったです。また、AYC で出会った人はみんな人間的にもおもしろい人ばかりでした。そんな人たちに囲まれて過ごした 4 泊 5 日は私にとって忘れられない思い出になりました。AYC で得たこのつながりはこれからもずっと大切にしたいと思います。冒頭にも述べたように、AYC で出会った人とのつながりや経験、全てが私の“たからもの”です。AYC に参加できて本当によかったです。ありがとうございました!



## AYCに参加して

啓明学院高校  
與那覇 秀亨

AYCに参加して、最も印象に残っている事が2つあります。

1つ目は、かやぶきの里へ訪れたことです。というのも、私は通訳係のメンバーだったので、台湾からこられたAYC参加者に通訳をさせていただいたのです。日常において通訳をする場は全くないので、伝えたい内容がうまく伝わるのか不安でした。しかし、今回通訳させていただいて、通訳に少しだけ自身を持ってました。マンツーマンで通訳をしたので、自分のペースでしっかりと通訳することができ、個人的な話も少しずつできたので、自分なりにしっかりできたと思います。また、かやぶきの里についての知識もなかったので、(1番右 與那覇 秀亨さん) 良い勉強にもなりました。



2つ目は、平和を実現するためのアクションプランを作成したことです。2日目、3日目に開催された講演とワークショップを踏まえ、私たちは平和について考えました。その上で、班に分かれてそれぞれアクションプランを作成しました。私たちの班のアクションプランは「YEAH」と言い、主に中高生を対象としたアクティビティのことです。「YEAH」とは、「Youth Empowerment Activity Hosting」の略です。このプランの目的としては、若い世代、主に中高生を中心に異なる文化や価値観を理解してもらうことにあります。そのために、日本に来ている留学生に参加してもらうことで、身近に文化の違いを日本の中高生に体感してもらいます。そのリーダーとして大学生も参加できるというプランです。私たちの班が考えたアクションプランの参加者の異文化に対する考え方が良い方向に変わってくれたらと思うと、このプランを実行できる日が楽しみです。

今回AYCに参加して、私自身が実感できるほど平和に対する考え方が変わったと思います。AYCに参加する前は、平和について考える機会はなくしっかりと平和について考えたことはありませんでした。しかし、今回AYCに参加して平和について考えることは大切だと思いました。このように私はAYCでたくさんのことを学びました。この4泊5日は私にとって忘れられない経験になりました。

## 平和について考えて...

啓明学院高校  
浦川 慶宇

私は両親の仕事の都合でシンガポールに住んだりメキシコに1年間留学したりとおそらく他の同級生よりは国際的な家庭で育ちました。そのおかげでたくさんの外国の方々と人間関係を築くことができました。今回このAYC京都に参加したのも学校での国際交流プログラムとして、多くの人と知り合えるかもしれないと思ったからです。



正直、このプログラムが“平和”をテーマにしていることなど当日までほとんど意識していませんでした。

(左端 浦川 慶宇さん)

楽しく、たくさんの人と話し、異文化理解が出来れば良いくらいのイメージを持って京都に向かったことを覚えています。しかし、3日目のスティーブさんの講演を聞いてキャンプ中、平和について深く考えるようになりました。“平和を実現するのは簡単ではない。願えば叶うほど甘いものではない。それをもっとわかってほしい。”と言う当たり前のことを言われて大きな衝撃を受けました。平和を願うだけで何もしない、AYCが終わればまたいつもの生活に戻り平和について考えたことなんて忘れてしまう、スティーブさんの講演でそれを痛感させられました。

その後のアクションプランをはじめとする、実際に自分たちで何かしようとするアクティビティーには積極的に参加しました。このような活動を少しでも広げ平和の事を願うだけでなく真剣に行動する人が増えるように今後も努力していきたいです。

1つだけこのAYCで疑問に感じたのは最終日の豪華なパーティでした。それまでずっと平和について考え、取り組んできたのに自分たちはこのような事をしていていいのだろうかと思うとあまり楽しむ事は出来ませんでした。“世界には人口に十分な量の食料があるのに30億人以上の人がその日の食料に事欠く”スティーブさんがおっしゃっていた言葉はこういう事なのかなと思います。仕方がないとわかっていても矛盾を感じずにはいられません。もちろん、個人としてはとてもいい経験になり、はじめに目的としていた他国の方々とともに中を深める事ができたたくさんの刺激を受けました。

今自分にできる事を精一杯やろう、そう思えるようになった素晴らしい経験でした。

## Asia Area Youth Convocation

The Kobe YMCA College  
Akeem Cabarron

The AYC Youth Convocation was a great way to meet new friends, and also learning about the world's problems and giving solutions to it together. The first seminar we talked about what Peace is and how to contribute peace as an individual and as a nation. The second seminar was about building a self-sustainable environment. Both topics really managed to open my eyes and uncover more knowledge that I think the youth of today should care and know as well. What I really loved about this convocation is that it really makes you think. About possibilities, consequences, empathy, sympathy, and love. Which I and the other participants discussed with our opinions. We were raised up in different places, ways, and with a different culture. During that time I experienced that no matter what race or country you came from, we all live in the same earth. I know think about the earth not as a planet but just like a big neighborhood. It was my first time to join such an event and there was no moment that i regret. There's tons of really fun activities for you to do and lots of things for you to learn in this convocation. Aside from the seminars we did a lot of games and visited some places in Kyoto like the village where the roofs were made of really old straw. What's more amazing was that therewere only a handful of people who can make it in the traditional way. We also caught fish, danced by the bonfire, and just really had a great time. We went there as curious strangers and left as friends with a single goal. As one of the youth in this world it opened my eyes to the things the general masses don't really see in the news. I finished the convocation with an open-mind, wisdom, and the desire to change the world for the better.



# My First AYC Experience

The Kobe YMCA College  
カオリ Okada (Japan and Philippines)

First of all, I would like to thank all those people behind the success of the AYC 2015 held in Kyoto. It's my privilege and my pleasure to be one of participants of this convocation. I didn't expect how everyone got so comfortable with each other and had instant connection regardless of language barrier and cultural differences. The sessions we had for making Action Plans for



Peace were eye-opening because I heard many interesting ideas from different perspectives. I commend the simple yet fantastic workshop of Ms. Ronni Alexander using Popoki to give depth on the importance of Peace Awareness. Also, the lecture of Mr. Steve Leeper was remarkable especially regarding his plans on making a sustainable and independent environment for everyone.

I absolutely enjoyed visiting the village with thatched houses and catching Ayu fish on the river. But what I enjoyed the most is the priceless bonding I had with new-found friends from different parts of the world during late night after sessions, dance practices, Making Action Plans, and Cultural Night when everyone showcased their talents and the AP Night when everything was magical.

The Kyoto AYC 2015 was such an overwhelming experience for me and truly an unforgettable one because I felt "Peace" with different people of different cultures within those 5 days. Peace is achievable if you learn to respect one another.

Thank you! :)



## 平和について

The Kobe YMCA College

Z.B.H

AYC では、アレキサンダー教授の平和についての話は、私をいろいろ考えさせた。

人間の文明が誕生して以降この数千年の間、人間は平和を追い求めるのをかつて止めたことがなかった。今時になって、私たちは依然「平和が欲しい」という話を絶えず聞いている。平和とは、一体なんだろうか。この世は今、一体平和であるか否か。もし平和が戦争がないという意味であれば、この世界は平和ではるかに及ばない。現在、アフリカや、中東などでは、戦火が飛び散って、人々が塗炭の苦しみをなめている。仮に、今私たちが戦争をゼロにさせても、この世はまだ不安定なことがいっぱいある。宗教の差異、観念形態の論争、分配の不平等、ひいては人種の間違によって、いろいろな紛争が存在している。結局、戦争繰り返すことになってしまうはずだ。人間の差別は消滅しないものだ。こういう差別はいつまでも戦いの理由になれる。差別がなくなるとしたら、いわゆる平和は、いつまでも来ないだろう。

実はこれが私の結論だ。本当の平和の道のりは、前途遠遠であり、ひいては実現不可能なものである。平和は「鏡に映る花、水に映る月」のような、美しいものに見えるが、実際にはありそうもない幻想だ。変わらない真相は、この世界は残酷で、人間は戦いを好む。これだけのことである。しかし、もし平和は夢でしかないのであれば、「平和」って、意味がない嘘だろうか。いや、意味がないとは限らない。「平和」は私たちが、平和を追求している過程に宿る。平和の実現はできないからこそ、この数千年間、人類はずっと平和に憧れていた。そして、この望みを実現するため、努力した。こういう変わらない望みと努力は、平和の本当の価値であると思う。つまり、戦争あってこそ、人類は平和を追い求めるのだ。平和はゴールではなく、歩き尽くさない道である。人間がすべき事は、ただひたすらこの道を進むということだ。たとえいつまでも終点に着かなくても。

諸事情により名前をイニシャル表記にしております、ご了承ください。